



区の手続きや施設・イベント案内は  
せたがやコール ☎5432-3333 FAX5432-3100

午前8時～午後9時  
年中無休

## 特集 ICTの活用で せたがやの教育が変わります！



..... 1-3

教育総合センター  
(運営計画の重点的取組事業)

..... 4-5

世田谷区の  
キャリア・未来デザイン教育

..... 6-7

教えて！せたがやの星  
陸上競技選手  
新谷仁美さん

..... 8



### ICTを活用したこれからの学びのかたち

子どもたちがこれからの時代に必要な資質や能力を身につけるための、教育の質の転換が求められています。そのためには、これまで一般的に行われてきた、教員が主導する教育にとどまらず、子どもたちが主体性をもち他者と協働し課題を解決していく能力を身につけさせることが必要となります。

このためにはICTの効果的な活用が必要です。本号では、現在、教育の場でどのようにICTが活用されているのかを紹介しています。



## ICTの活用により教育の質的転換へ



Society5.0\*という新たな社会の出現に向けて、ICTの特性を活かして学びの質的転換に取り組んでいきます。子どもたち一人ひとりが自らの将来の姿を思い浮かべ、その姿を実現するために必要な学びにICTを活用しながら取り組んでいきます。

\*Society5.0とは、人工知能、ビッグデータ、IoT等の先端技術が高度化してあらゆる産業や社会生活に取り入れられる社会

急激な変化が予想されるこれからの時代を生き抜くために、教員の指示を待つのではなく、**自ら問いを見出し、自分なりの方法で課題を解決し、友だちと交流しながらさらに思考を深め、自分たちの学びを振り返る**ことで、**新たな課題を見つけていく**能力を子どもたちに育てていきます。

### 従来の学び

教員が主導する学び

ICT

教員が教える**教具**



変革

### せたがや探究的な学び

子どもが多様な他者と共感・協働し主体的に課題を解決していく学び

ICT

子どもが**学びの主役**になるための**文房具**



### アナログとデジタルの両方を使いこなし、自分の可能性を最大限発揮する

タブレットは、鉛筆やノートと同じく主体的に学ぶために欠かせない文房具となります。子どもたちは、はじめは使い方を教わり、回数を重ねるうちに使い馴染み、それぞれの特性を理解して上手に使えるようになります。

将来、社会の急激な変化に主体的に向き合い、より多くの人とコミュニケーションを取ったり、積極的に情報発信をしたりしながら、一人ひとりが自らの可能性を最大限発揮できるように、子どもの頃から、鉛筆やノートと同様にタブレットを使い、アナログとデジタルを組み合わせて使いこなせるようにしていきます。



デジタルを活用した学び



対面のよさを活かした学び



## デジタル時代を生きる子どもたちに必要な情報リテラシー



これからの学びに欠かせないタブレットは、使い方を間違えると、さまざまなトラブルが発生することもあります。例えば、有害な情報に触れたり、コメントが「炎上」したり、生活リズムや健康に影響を及ぼしたりすることなどが挙げられます。そのために、子ども一人ひとりの使い方を見守りながら、その子にふさわしい支援をしていきます。

### リスクがあるから 厳しく使用を制限

使う意欲が失われ、次第に使われなくなる。学びの可能性は広がらない…



### リスクを理解した上で 安心・安全に利用

たくさんの情報が集められ、瞬時に共有され、対話を通して学びが広がる・深まる



一人で使うのではなく、**タブレットを介して友達や教員、保護者などつながり、対話をしながら**目的に合わせた賢い使い方を学んでいきます。

### 健康や生活リズムなどへの影響を大きくしないための取組み

学校で利用する場合、①教室の明るさ ②画面への映り込み ③目と画面の距離 ④利用時の姿勢 ⑤継続して利用する時間等に留意します。また、家庭での使用においても「寝る直前の利用を控えること」などについても呼びかけていきます。

大きな学習環境の変化となるため、日々の健康観察や、定期健康診断により子どもたちに大きな影響が及ばないように見守っていきます。

## 教員一人ひとりのICT活用指導力の向上を目指して



令和3年度、教育委員会は、ICT活用指導力に関する教員人材育成計画を基に、研修や研究を充実させ、教員のICT活用指導力の向上を図ります。また、学校に専門性が高いICT支援員を派遣して、教員のサポートも充実させます。今後、教員同士の学び合いを活性化させ、一人ひとりのICT活用指導力を高めていきます。



有識者によるオンライン教員研修



指導主事によるTeamsを活用した授業づくりについての校内研修



ICT支援員による初期操作のサポート

学びが変わる一子どもたちの未来を見据えて

# 教育総合センター (運営計画の重点的取組事業)

## 教育総合センター運営計画

教育総合センターの運営体制や重点的に取り組む事業をまとめた令和3年度から令和5年度までの年次計画です。以下の運営方針のもと、進めていきます。詳しくはホームページをご覧ください。



- 1 教育の質の転換
- 2 誰一人置き去りにしない教育の推進
- 3 学びを支える環境の整備

### 重点的取組 1

## 学校や教員等への支援を強化します

### 1 教育課題に応じた研究や教員等の研修実施

学校が直面しているさまざまな教育課題について、学識経験者等を交えた検討委員会での検討や大学、企業、区の関連部署等と連携した課題に対する研究や教員研修などを実施します。

### 2 教育のICT化を推進する人材の育成

児童・生徒1人につき1台のタブレット端末を配備し、学校と家庭で使用できるようになりました。ICTを効果的に活用していくため、教員のスキルを向上させていきます。



### 重点的取組 2

## 教育相談の充実と子どもたちの支援を強化します

### 1 総合的な教育相談の拠点づくり

いじめや不登校、特別支援教育などのさまざまな相談に対応する総合的な相談体制をつくり、家庭や学校を支援します。

### 2 専門チームによる学校支援

各学校を巡回して配慮を必要とする子どもたちの支援、いじめ等の課題への専門的な支援、不登校への支援など、専門チームによる学校への支援体制を強化します。



世田谷区の教育を推進する拠点となる「教育総合センター」を、若林小学校の跡地（若林5-38-1）に整備し、令和3年12月20日に開設する予定です。今回は、3月に策定した『教育総合センター運営計画』より、重点的に取り組む主な事業について紹介します。

### 重点的取組 3

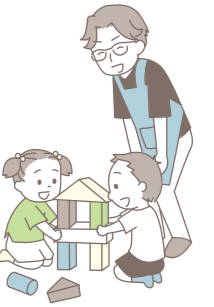
## 乳幼児期の親子と幼稚園教諭・保育士等の支援を強化します

### 1 さまざまな体験を通して子どもの資質・能力を伸ばす環境づくり

自然体験や外遊び、芸術・文化など幼稚園や保育園等の現場でのさまざまな体験事業を実施します。

### 2 幼稚園教諭・保育士等の人材育成や運営の支援

就学前から小中学校まで連続的な教育・保育の仕組みづくりに取り組みます。乳幼児教育アドバイザーや幼児教育環境支援専門員（アトリエリスタ）などの専門人材を各園へ派遣して、乳幼児期の教育・保育の現場を支援します。



### 重点的取組 4

## 地域や社会と連携して子どもの「遊び」や「学び」を支援します

### 1 地域人材による学校支援の仕組みづくり

学校業務をサポートするスタッフについて、都人材バンク等の既存の仕組みを活用しながら人材確保を支援します。

### 2 STEAM（※）事業の実施

交流エリアや広場を開放し、乳幼児期の非認知的能力の育成につながる取組みを展開します。また、科学実験やプログラミング教育などの子どもや親子を対象としたSTEAM事業を実施します。

※Science (科学), Technology (技術), Engineering (工学), Art (芸術), Mathematics (数学)の頭文字



教育総合センターのことをもっと知りたい方は  
こちら

世田谷区立教育総合センター 検索



※教育センター（弦巻3-16-8）は教育総合センター（若林5-38-1）に移転しますが、同じ館内にある中央図書館およびプラネタリウムは移転しません。

※ほっとスクール「城山」（豪徳寺2-10-9）も教育総合センターに移転します。

世田谷区の

# キャリア・未来デザイン教育

「キャリア・未来デザイン教育」とは、子どもたちが社会や環境の変化などにも対応する力や、自分の生き方をイメージし、なりたい自分に近づく力を身につけるための教育です。国語や算数、英語のような教科とともに、子どもたちの生活の中で培っていきます。

## キャリア教育で目指す4つの能力

### 社会的・職業的自立に向け必要な能力・態度

#### 人間関係形成・社会形成能力

友達のよいところを見付ける力、お互いを大切に  
する力、コミュニケーション・スキル、チーム  
ワーク、リーダーシップ  
など

#### 自己理解・自己管理能力

自分の役割の理解、自分の  
良さに気付く力、自己  
の動機付け、忍耐力、ス  
トレスマネジメント、す  
すんで学ぼうとする力  
など

#### 課題対応能力

情報の理解・選択・処  
理、さまざまな課題を発  
見したり、解決したりす  
るための力や態度  
など

#### キャリアプランニング能力

学ぶこと・働くことの意  
義や役割の理解、多様性  
の理解、将来について考  
える力  
など

## 子どもたちは次のような学びを行っています

例えば

### 教科の学習で

働く人から仕事についてやりがい  
や苦労について話を聞くこと  
で、学ぶことや働く  
ことの意義を理解  
します。また、  
自分の適性につ  
いて考えること  
で、将来の自分  
の生き方につ  
いて考えを深  
めます。



例えば

### 特別活動で

子ども祭りに向けて、学級ごと  
に出店内容を考え、当日の役割分  
担を決め、自分の役割を理解し  
ます。また、出店準備で起こるト  
ラブルを解決して  
いくことで、さ  
まざまな課題を  
解決するための  
力や態度が育ち  
ます。



例えば

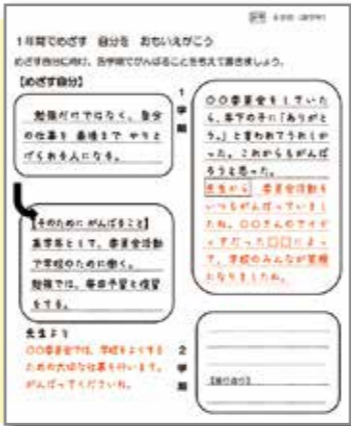
### 学校外の活動で

サッカーのクラブチームで、  
チームメイトとサッカーの戦術  
について話し合うことで、コミュ  
ニケーション・スキルを育みます。  
また、チーム力  
をあげるために技  
術を教え合う中  
でリーダーシップ  
を培うことにつ  
ながります。



### キャリア・パスポートで

子ども一人ひとりが、自らの学習状況や  
キャリア形成を見通したり、振り返り  
できるようにすることが重要です。例  
えば、日々の学習や学校行事などの活動  
を記録し蓄積できるキャリア・パスポート  
を活用することで、学習や活動を振り返  
り、新たな学習や生活への意欲につな  
がり、将来の生き方を考えることが  
できます。



※参考：「語る・語らせる・語り合わせるで変える！キャリア教育」（文部科学省 国立教育政策研究所）  
「自分らしい生き方の実現を目指して」（東京都教育委員会）

## キャリア・未来デザイン教育の視点による教育活動（世田谷小学校6年生）

世田谷小学校では、「身近な自然環境についての不思議」を探究的に学ぶことを通して、キャリア教育で  
目指す4つの能力の中で、特に「人間関係形成・社会形成能力」や「自己理解・自己管理能力」を育むこと  
を目指した取組みが進められました。

例えば、よりよい自然環境について議論することでコミュニケーション・スキルが向上したり、相手を理  
解する態度に変化が見られたりしました。また、グループで環境保全に向けた取組みを進める中でリーダ  
ーシップの向上が見られました。

さらに、環境を守るために自分ができることを考えることで、今後の自分自身の可能性を肯定的に理解す  
るなど、自分の役割の理解やすすんで学ぼうとする力が育まれました。

子どもたちの感想からは、「自らが自然とともにどう生きるか」という課題意識をもち、今後の社会の中  
で自分が果たすべき役割について主体的に考えている様子うかがえました。



よりよい自然環境について、  
グループで議論しています



土壌調査から課題意識をもち、環境を守るために  
自分ができることを考えています

世田谷区では、子どもたちが将来、社会の中で課題意識をもち、自分の役割を果たしながら、  
自分らしい生き方を実現できるようにキャリア・未来デザイン教育を展開していきます。

問 教育研究・研修課 ☎5432-2711 FAX 5432-3041

### 編集後記

今回の112号は、ICTを活用した新しい教育のかたちを巻頭特集としてご紹介しました。世田谷区では子ども  
たちが新たな時代を迎えるにあたり、必要となる資質や能力を身につけられるような教育をこれからも検討・実践し  
ていきます。「せたがやの教育」では、教育の最新情報を今後もお届けしていきます。

### 多言語対応の電子書籍（デジタルブック）で配信をしています。

電子書籍（デジタルブック）「カタログポケット」内で、日本語から9カ国語への自動翻訳・  
音声読み上げ機能により、「せたがやの教育」を多言語で読む・聞くことができます。  
二次元コードよりアプリをインストールするか、ブラウザ版をご覧ください。



次号113号は令和3年12月に発行予定です。お楽しみに！

# 感謝の気持ちをもちながら 日々生活をしていって ほしいなと思います。

陸上競技選手

## 新谷 仁美 さん

陸上競技（長距離）選手の新谷仁美さんにインタビュー。  
現在、世田谷区を拠点にトレーニングをされています。  
これまでに会った恩師とのエピソードやオリンピックへの意気込み、子どもたちへのメッセージを語っていただきました。

### Profile

岡山県出身。興譲館高校時代は全国高校駅伝1区で3年連続区間賞を獲得。  
2012年ロンドン五輪5000m 9位、2013年のモスクワ世界陸上10000m 5位入賞を果たしたのち2014年に現役引退。会社員生活を経て2018年に現役復帰。  
2020年にはハーフマラソンの日本記録、5000m日本歴代2位を樹立。12月の日本選手権にて10000mの日本記録を18年ぶりに更新し、東京五輪日本代表に内定している。



新谷仁美  
陸上競技

### 恩師たちとの出会いと恩返し

#### 一幼少期はどのように過ごされていましたが

小学生の時は、習い事でバトントワリングをやっていたのですが、本当に楽しくて、それ以外にも水泳、サッカー、習字、塾、ピアノにも通っていましたが、体を動かす習い事の方が楽しかったです。

#### 一陸上競技を始めたきっかけはなんですか

中学校の陸上部に兄が在籍していたということもありましたが、当時、シドニー五輪で高橋尚子さんが金メダルを取った映像を観て「私もマラソンで金メダルを取りたい」という気持ちになり、陸上競技にのめりこみました。

中学校3年生の時に一人目の恩師と出会い、本格的な陸上競技の練習を始めましたね。

高校の時に二人目の恩師と出会い、3年間、タイムがうなぎ上りに速くなり、走れば走った分だけ速くなる楽しさがすごくあった3年間だったと思います。

#### 一気持ちの面が競技の結果に影響しますか

気持ちの部分で支えられて成果が出ています。中学校で一人目の恩師に出会えたことで、陸上への本気の思いが陸上競技につながりましたし、高校では二人目の恩師と一緒に日本一を目標に掲げてやってきたことで結果につながりました。

今は、横田コーチが率いるTWOLAPSであったり、世田谷区の方が協力して走れる環境を作ってくれるので、気持ちの部分、人の優しさっていう部分が私の結果に大きく影響しているのだから。優しさをもたらした分、私は結果で返してきたのかな

て。練習すればするほど結果が出たというよりも、人に協力してもらったり、支えてもらったり、優しくしてもらったことで、成果につながったのだと思います。

#### 一高校卒業後に変化はありましたか

横田コーチとの出会いで、私の中で陸上競技というものが大きく変わりました。

2019年の世界陸上ドーハ大会の試合後、横田コーチと今後について話し合っ、「やはり結果が必要だね」「僕たちだけの自己満足だけの世界じゃ通用しない」ということになりました。まず日本の頂点を、ということを確実にしたことで、スポンサー、所属先、そして応援して下さる方々に向けてのメッセージを決めることができたのかなと思います。

#### 引退と復帰。目標をもつ幸せ

#### 一度引退され、復帰されましたが、そのときのお気持ちを教えてください

2014年の1月末にかかとのけがを負い、引退しました。その後、一般企業に勤めていたのですが、中途半端な気持ちで出社している後ろめたさがありました。

走ることは嫌いになってしまったのですが、目標を立てて送る生活は幸せなことだと気付いて、陸上競技への復帰を決め、2017年の夏に、世田谷区を拠点に走るようになりました。

走れるような体ではなかったのですが、競技者だった時の気持ちで速く走ろうとするのですよね。そうしたら恥骨を疲労骨折してしまっ。そのため、2018年の夏に、小さい記録会から復帰という形をとりましたね。

### 一オリンピックへの意気込みをお聞かせください

五輪は私たちアスリートも、応援してくださる人たちにとっても夢ある場所だと思います。その夢ある場所でやはり一番、頂点をとるのが私の目標でもありますし、現実にさせるために今準備をしています。私はトラック種目の長距離の選手ということで、5000メートルや10000メートルもマラソンと同じような、輝かしい競技だということを実証すべく、五輪ではメダル獲得を目標にして頑張っています。

#### 一最後に子どもたちにメッセージを

私が言うのもなんですが、私はスポーツで走ることは嫌いです。ただ、走ることは私の仕事なので、仕事という責任感のあるものに関しては、情熱は人一倍こだわりをもってしています。そしてこのような活動ができるのは周りの支援、応援があってこそだと思っています。

子どもたちには、自分の好きなことをやるのも大事ですが、「ありがとう」っていう感謝の気持ちをもちながら日々生活をしてほしいなと思います。そこから自分がやりたいことを繰り広げる、見せていくということができれば、みんな応援してくれるし、支えてくれると思うので、まず自分に対して、人に対して「ありがとう」っていう感謝の気持ちをもって過ごしてください。

